

自ら学ぶ子どもを育てるための学校図書館教育

～学習・情報センターの機能充実・活用推進と教科学習におけるパスファインダーの活用を通して～

飯塚市立椋本小学校
学校司書 吉住 歩

こんな手立てによって…

①学習・情報センターの機能充実・活用推進〈日常的な子どもへの支援〉
②パスファインダー(調べ方の道案内)の活用〈教科学習における子どもへの支援〉

こんな成果があった！

子どもが自分から目的をもって図書館へ足を運び、資料を探し出し、答えを見つけて疑問や問題を解決できるようになった

1 考えた

学校図書館には今後より一層、子どもの自ら学ぶ力の育成を支える役割が求められていく。その役割を果たすため、学習・情報センターとしての機能を充実させ、子どもが自ら目的をもって来館し、資料を見つけ、調べ、ひとりで答えを見つけ問題解決できるよう導いていきたい。手立てとして、(1)学習・情報センター機能の向上を図る環境整備・活用推進 (2)パスファインダー(調べ方の道案内)の活用 の2方途から学校図書館支援を工夫すれば、情報活用能力・問題解決能力を養い、自ら学ぶ子どもが育つであろうと考えた。

2 やってみた

日常的な子どもへの支援として、子どもが使いやすい学校図書館の環境整備・ニーズに応じた幅広い資料収集を行い、図書館だよりを使って学習・情報センター機能の活用を周知・推進した。また、図書館利用指導・情報活用に関する指導を、行事などを取り入れつつ計画的に行った。教科学習における支援では、実践Ⅰでパスファインダー(調べ方の道案内)の活用を行い、子どもの情報活用能力・問題解決能力の養成に取り組み、実践Ⅱでパスファインダーの活用を繰り返させて、子どもの能力定着を図った。

3 成果があった！

学習・情報センターの機能充実・活用推進を行ったことで、子どもは自ら本を探しだせるようになり、参考資料コーナーを使いこなし、レファレンスなどの学校図書館サービスを活用できるようになった。

実践Ⅰでは、パスファインダーの活用を通して、子どもが調べ方の道案内に従って、図書館資料など情報を活用して調べ学習を行い、自分の力で疑問や問題を解決する姿を確認した。実践Ⅱでは、パスファインダーの活用を繰り返すことにより、情報活用能力・問題解決能力が定着してきている姿を確認した。

<目次>

自ら学ぶ子どもを育てるための学校図書館教育

～学習・情報センターの機能充実・活用推進と教科学習におけるパスファインダーの活用を通して～

1	主題設定の理由	3
	(1) 現代社会の要請から	3
	(2) 椋本小学校図書館の実態から	4
2	主題の意味	4
	(1) 主題の意味	4
	(2) 副主題の意味	4
3	研究の目標	5
4	研究の構想	5
	(1) 研究の仮説	5
	(2) 研究構想図	6
	(3) 研究の内容	6
	(4) 検証の方法	8
5	研究の実際	8
	(1) 学習・情報センターの機能充実・活用推進	8
	(2) パスファインダー(調べ方の道案内)の活用	14
	実践Ⅰ	14
	実践Ⅱ	18
6	全体考察	21
7	成果と課題	25
	(1) 成果	25
	(2) 課題	25
	<参考文献>	25

自ら学ぶ子どもを育てるための学校図書館教育

～学習・情報センターの機能充実・活用推進と教科学習におけるパスファインダーの活用を通して～

飯塚市立椋本小学校
学校司書 吉住 歩

1 主題設定の理由

(1) 現代社会の要請から

タブレットの一人一台貸与など、進展する情報化社会における学校現場では、子どもの情報活用能力、問題解決能力、批判的吟味力等の育成が必要とされている。

平成28年「これからの学校図書館の整備充実について」(文部科学省)では、学校教育と学校図書館に関する基本的な考えとして、

- これからの学校図書館には、読書活動における利活用に加え、児童生徒による課題の発見・解決のために必要な資料・情報の収集・選択など、各教科等の授業における言語活動や問題解決的な学習、探究的な学習、新聞を活用した学習などの様々な学習・指導場面での利活用を通じて、子供たちの言語能力、情報活用能力、問題解決能力、批判的吟味力等の育成を支え、主体的・対話的で深い学びを効果的に進める基盤としての役割が一層期待されている。
- 具体的には、学校図書館の図書館資料を有効に利活用することにより、児童生徒が興味・関心等に応じて主体的に学習内容の背景を探ったり、学習の到達点を認識したりすることや、問いを見いだして解決したり、自己の考えを形成し表現したりすることが可能である。
- また、児童生徒は、学校図書館の資料や情報を利活用して、探究的な学習を繰り返し経験することにより、情報を適切に収集・選択・活用する技能を身につけることを通して、推論する力や見通す力などを身に付け、これまで活用したことのない状況にも対応できるようになる。つまり、学校図書館の利活用は「学び方を学ぶ」ことでもある。
- さらに、今後一層進展する情報化社会においては、情報を主観的に捉えながら、多面的・多角的に吟味し見定め、何が重要かを主体的に考え、見いだした情報を活用しながら他者と協働して新たな価値の創造に挑んでいくこと、情報技術を手段として活用していくこと、情報技術が急速に進化していく時代にふさわしい情報モラルを身に付けていくことなどが重要である。このような情報活用能力の育成に当たっても学校図書館の機能を有効に活用していくことが期待されている。

などと述べられている。

また、小学校学習指導要領（総則）においても、指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項として、「学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、児童（生徒）の主体的、意欲的な学習活動や読書活動を充実すること」とされている。

学校図書館には今後より一層、学習・情報センターとして、子どもの自ら学ぶ力の育成を支える役割が求められていくと考え、本主題を設定した。

（２） 椋本小学校図書館の実態から

令和元年度まで、本校図書館は学習・情報センターとしての機能があまり果たされておらず、館内環境、資料も未整備であり、活用も少なかった。その実態を改善すべく、令和２年度より徐々に館内環境を整え、資料を収集し、図書館利用指導・情報活用に関する指導の学年別年間計画を作成し、学習・情報センターとしての機能を果たせるよう活動してきた。

令和３年度はさらに、学習・情報センターとしての機能を充実させ、子どもが自ら目的をもって来館し、資料を見つけ、調べ、ひとりで答えを見つけ問題解決できるよう導いていきたいと考え、本主題を設定した。

2 主題の意味

（１） 主題の意味

「自ら学ぶ子ども」とは、自分から目的をもって図書館へ足を運び、資料を探しだし、調べ、ひとりで答えを見つけて疑問や問題を解決する子どものことである。

つまり、「自ら学ぶ子どもを育てるための学校図書館教育」とは、学校図書館の資料を活用し問題解決のための情報や手段を探り、見きわめていく学習を繰り返すことにより、情報を適切に集め、選び、読み解いて答えを導き出す力を身に付け、その活動を通して推論する力や見通す力を得て、いずれこれまで経験したことのない状況にも対応できる子どもを育てることである。

（２） 副主題の意味

① 「学習・情報センター」とは

子どもの、自ら調べ問題解決しようとする意志と学習活動を支え、情報を集め、選び、読み解いて答えを導き出す力を養い、図書資料を使って教科学習を広げていく学校図書館の機能である。

- ・ 図書館で、図書館資料を使って授業を行うなど、教科等の日常的な指導において活用される。
- ・ 教室での授業で学んだことを確かめ、広げ、深める、資料を集めて、読み取り、自分の考えをまとめて発表するなど、児童生徒の主体的な学習活動を支援する。
- ・ 利用指導等の取組を通じ、情報の探し方・資料の使い方を教える。
- ・ 児童生徒が学習に使用する資料や、児童生徒による学習の成果物などを蓄積し、活用できるようにする。

学習・情報センターを整備して充実させ、その機能を図書館だよりで周知し、図書館まつり等を通じて活用を推進し、学年別年間計画をもとに図書館利用指導を行って、子どもの情報活用能力や問題解決能力の発達を支える取組を日常的に行っていく。それにより、子どもは学習・情報

センターとしての機能を知り、疑問・問題があれば解決のため来館し、利用指導で学んだことを活かして情報を集め、選び、読み解いて、自ら答えを導き出すことができるようになることを考える。

② 「パスファインダー」とは

知りたいことがあるときに、その調べ方を教え、役立つ資料や情報を紹介し、答えに導く道案内のことであり、それをまとめた1枚のリーフレットのことである。

パスファインダーは、子どもがどのように調べたらいいかを体系的に示し、テーマを調べるために必要な資料や自ら情報を探し出すためのヒントなどを載せている。

パスファインダーは、自らの力で資料や情報を獲得し、情報検索の方法を習得していくことができるという特性から、「主体的な学習の育成」や「メディア活用能力の育成」を掲げた利用指導の目的にかなった情報支援サービスであるともいえます。したがって、体系的な利用指導のもとで計画的に使われることによって、メディア活用能力の向上を図ることが可能になります。(省略)

学校図書館の使命は、資料・情報提供サービスと利用指導の二つの面から児童生徒の学習活動を支援していくことにあります。さまざまな情報支援サービスがある中で、今、パスファインダーが注目されているのは、メディア活用能力の育成が緊急となっている今日、これが学校図書館の利用指導を促進させるうえでも、極めて有効なツールであるからだと考えます。

石狩管内高等学校図書館司書業務担当者研究『パスファインダーを作ろうー情報を探す道しるべ』

全国学校図書館協議会, 2005.3, p 10 より引用

子どもにパスファインダー(調べ方の道案内)を活用させることで、図書館を使いどのように調べたらいいかを学ばせ、求める情報を獲得させ、探す答えにたどり着かせて、自ら問題解決させられるようになることを考える。

3 研究の目標

学校図書館教育において、情報を活用し、自ら問題解決する力を持った子どもを育てるために、学習・情報センターの機能充実・活用の推進に取り組み、教科学習でパスファインダーを活用させ、これらの取組の有効性を究明する。

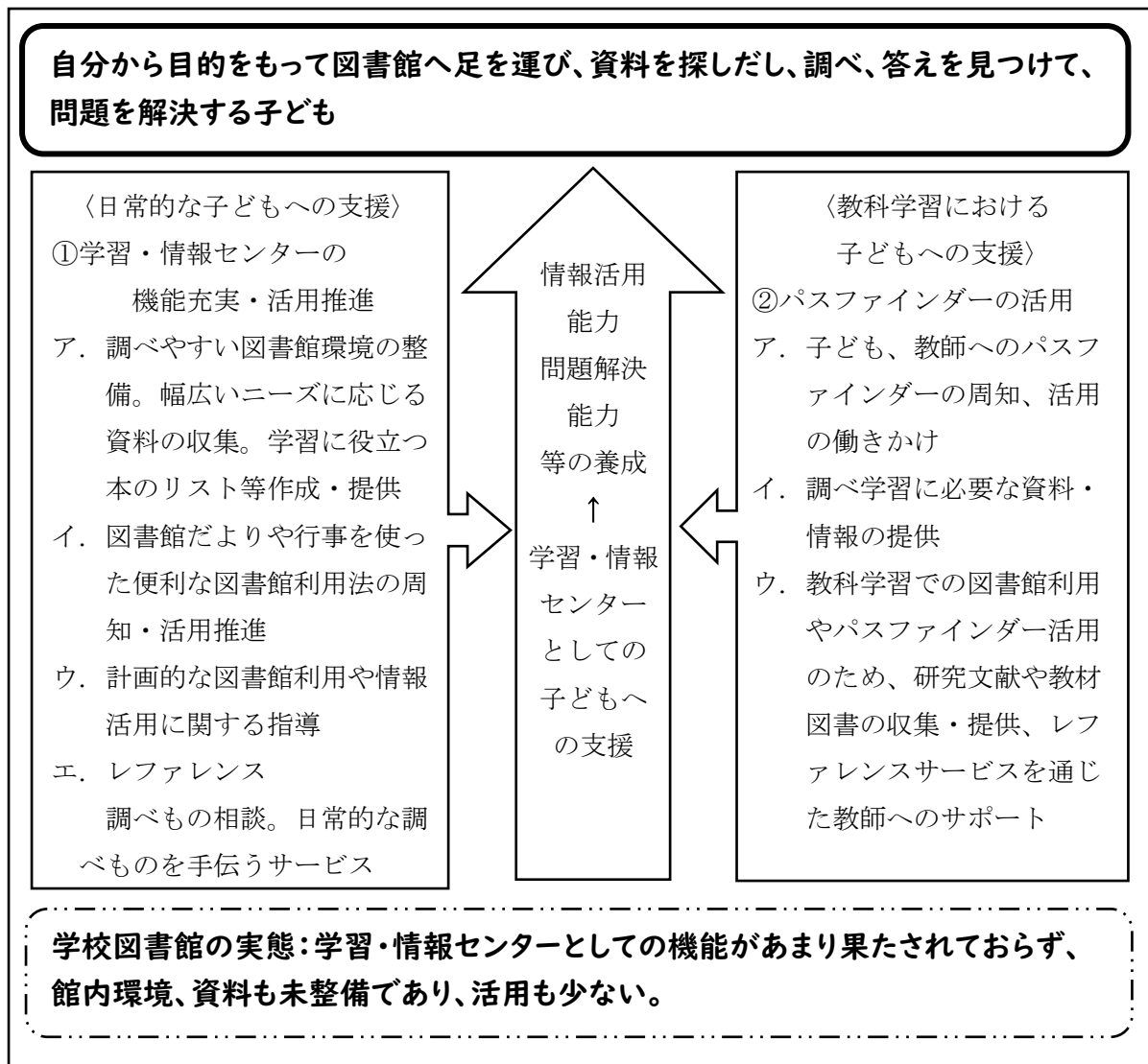
4 研究の構想

(1) 研究の仮説

椋本小学校図書館において、学習・情報センターとしての支援を次の2方途から工夫すれば、情報活用能力・問題解決能力を養い、自ら学ぶ子どもが育つであろう。

- ① 学習・情報センター機能の向上を図る環境整備・活用推進
- ② パスファインダー(調べ方の道案内)の活用

(2) 研究構想図



(3) 研究の内容

① 学習・情報センターの機能充実・活用推進

子ども・教師の多様な情報ニーズに応えられる資料を、図書・パンフレットなど媒体を問わず、幅広く収集・整理・保存する。学習・情報センターであることを意識して、分かりやすい本棚作りなど工夫し、図書館環境を整える。また、学習に役立つ本のリストやスタンプラリーを作成し、必要な時に提供できるようにする。

子ども向け及び教職員向けの図書館だよりの内容を工夫し、クイズやリクエスト募集、テーマごとの本の紹介などで来館を働きかけ、かつ便利な図書館利用法などの情報を周知して、学習・情報センターの活用を呼びかけていく。

ラベル指導ペーパーサートや調べ学習紙芝居を用い、興味を引きながらもわかりやすいよう工夫して、「椋本小学校図書館利用指導・情報活用に関する指導の学年別年間計画」(資料1)を基に計画的に指導を行い、図書館利用の技術や情報活用能力を身につけさせる。

椋本小学校 図書館利用指導・情報活用に関する指導の学年別年間計画 (令和3年度)											
	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年	・学校図書館について知ろう。	・本の借り方を学ぼう。	・本を元の場所へ戻す練習をしよう。	・本を大切に扱おう。	・図書館の使い方のおさらい	・自分の読書力にあった本のある場所、ラベルについて知ろう。	・絵本の並び方を知ろう。	・物語の本の並び方を知ろう。	・調べるための本があることを学ぼう。	・正しい姿勢で本を読もう。	
2年	・図書館の使い方のおさらい	・図鑑はどんなときに使うのかを知ろう。	目次と索引について知ろう。	・本を大切に扱おう。		・ラベルの見方を覚えよう。(分類番号と図書記号)	・読みたい本を、分類番号から自分で探してみよう。				
3年	・図書館の使い方のおさらい	・テーマの決め方について考えよう。	(・国語辞典を使ってみよう。) ・百科事典の使い方を学ぼう。	・本を大切に扱おう。	・分類について、本の並び方を確認しよう。	・本から答えを見つけたら、どうするか考えよう。 ・奥付を見よう。	・参考文献を書こう。		・様々な資料、図書館があることを知ろう。		
4年	・図書館のきまりやマナーを知ろう。	・本から答えを見つけたら、どうするか考えよう。 ・奥付を見よう。	・参考文献を書こう。	・レポートの書き方を知ろう。 ・著作権について知ろう。			(・漢字辞典を使ってみよう。) ・インターネット情報について学ぼう。		・レポートの書き方を知ろう。 ・著作権について知ろう。		
5年	・図書館のきまりやマナーを守りながら、より便利に活用していこう。	・テーマの決め方について考えよう。 ・引用してみよう。	・参考文献の書き方のおさらい	・レポートの書き方を知ろう。 ・著作権について知ろう。		・分類について、分類の仕組みについて知ろう。	・インターネット情報について学ぼう。		・レポートの書き方を知ろう。 ・著作権について知ろう。		
6年	・図書館のきまりやマナーを守りながら、より便利に活用していこう。	・テーマの決め方について考えよう。 ・要約してみよう。	・参考文献の書き方のおさらい	・レポートの書き方を知ろう。 ・著作権について知ろう。		・分類について、分類の必要性を確認しよう。	・インターネット情報について学ぼう。		・レポートの書き方を知ろう。 ・著作権について知ろう。		

【資料1 椋本小学校図書館利用指導・情報活用に関する指導の学年別年間計画】

利用者の多い6月には図書館利用指導に着目し、興味を引けるよう図書館まつりを工夫して計画し、目次と索引の使い方を学べる図鑑クイズなどで情報活用能力・問題解決能力の育成に取り組む。

また、日常的に問題や疑問をかかえ図書館にやってくる子どもの相談にのり、問題解決の方法をともに考え、必要な資料や情報を提供して支援する。レファレンス(調べもの相談)を積極的に行うことで、子どもに図書館利用の意識を根付かせ、活用推進できる。同時に、利用する子どもに、図書館利用や情報活用の技術を学ばせることができる。

② パスファインダー(調べ方の道案内)の活用

図書館を使った調べ学習が多くなり始め、百科事典の活用が増える小学3年生からを対象に、調べ方のコツや使える資料などを載せたパスファインダー(調べ方の道案内)を適宜作成・配布する。

子どもの活用の様子を観察し、調べる技術の定着度や情報活用能力の発達度などを確認し、利用指導と組み合わせて問題解決できるよう支えていく。

(4) 検証の方法

研究内容	検証方法	評価基準
①学習・情報センターの機能充実・活用推進	行動観察 事後の聞き取り	<ul style="list-style-type: none"> ・疑問や問題があるときに、自分から図書館に行き、調べようとする。 ・参考資料コーナーの百科事典や図鑑を使って調べることができる。 ・必要とする資料を自ら探し出すことができる。 ・レファレンスサービスにおいては、司書に疑問や問題をはっきりと伝え、提供された資料や情報から答えを見つけ出すことができる。
②パスファインダーの活用	事後の聞き取り アンケート 子どものノートや作品から	<ul style="list-style-type: none"> ・パスファインダーを活用し、必要とする資料や情報を見つけ、複数の情報源から自分のもとめる答えを見つけることができる。 ・見つけた資料や情報から、自分のもとめる答えを探し出すことができる。

5 研究の実際

(1) 学習・情報センターの機能充実・活用推進

①研究の実際

ア. 子どもが調べやすい学校図書館環境の整備・幅広いニーズに応じる資料の収集

椋本小学校図書館では、予約・リクエスト用紙等による購入希望調査を子どもや教職員に定期的に行い、資料購入の参考にしている。また、昨年度の教科学習での資料活用記録から足りない分野の図書を新刊から重点的に購入するなど、自校蔵書で子どもの幅広い調べ学習の要望に応えられるように計画的に活動している。

図書館全体の環境を見直し、全体的に見やすい館内配置・わかりやすいラベルや案内表示などを含めた本棚作りに取り組み、実際の図書館利用の様子を観察して、さらに学習・情報センターとして利用しやすいよう、導線を考えるなど工夫した。

また、図書以外のパンフレット・リーフレット等の資料も、昨年度の学習・情報センターとしての活動記録をもとに集め、教科の調べ学習で使いやすいよう教科単元名で整理・保管し(資料2)、貸し出ししている。



- ・「ごみはどこへ/環境問題」
- ・「水はどこから」
- ・「防災」
- ・「修学旅行」
- ・「点字」
- ・「手話」

【資料2 ファイル資料の本棚とファイル資料タイトル抜粋】

学習・情報センターの教師向けサポートとして、教材として使えるような資料や研究図書、昨年度の児童の作品などの学習記録を、教師用の本棚を作り、整理・保管して活用しやすく整備した。

宮沢賢治や新見南吉などの作家ごとの本のリストやSDGsの本のリストなど教科学習や自主学習で役立つ本のリストや関連スタンプラリーを作成し、必要に応じて子どもに配布している。

宮沢賢治(みやざわけんじ)の本 読了チェックリスト			
書名	著者名	請求記号	子
宮沢賢治やまなし	宮沢 賢治/作;田原 田鶴子/絵	E や	
よたかの星	宮沢 賢治/著;中村 道雄/画	E よ	
雪渡り	宮沢 賢治/著;たかし たかこ/画	E こ	
やまなし	宮沢 賢治/著;遠山 繁年/画	E や	
竜のはなし	宮沢 賢治/著;戸田 幸四郎/画	E み	
双子の星	宮沢 賢治/著;遠山 繁年/画	E ふ	



【資料3 宮沢賢治の本のリスト抜粋と

5年生教室外廊下に本を貸し出しして作った宮沢賢治のコーナー】

これらの取組後、十進分類法に従った館内配置やわかりやすいよう考えて作成した案内表示により、椋本小学校児童は1年生からラベル・案内表示を確認して本を戻したり、必要な本を探したりできるようになった。

また環境整備後、図書館だよりなどを使って、子どもや教師に学習・情報センターの機能を周知し、使えるような資料を紹介したことにより、教科学習での活用に繋げることができ、学習貸出の利用も増えた。さらに、子どもたちは、教科学習で提供した本のリストの読了に取り組み、感想を話し合っって小さな読書会を開く姿なども見られるようになった。

イ. 図書館だよりや行事を使った便利な図書館利用の周知・活用推進

椋本小学校図書館では、子ども向け図書館だよりのほか、教職員向け図書館だよりを適宜作成し、便利な図書館利用法の周知・活用推進を行っている。

□今月のおすすめの本のコーナーは、「夏の自由研究におすすめの本」です。□
 □楽しい物語や、調べ学習に使える本など、たくさん借りて楽しんでください。□

夏(なつ)の自由研究(じゆうりゆけんきゆう)におすすめの本(おすすめの本)

本の題名(本の名まえ)	著者名	出版社	分類
12歳までに身につけたいプログラミングの超きほん	飛田 0 桂子	朝日新聞出版	00・ト
ネットの約束 0 今から知っておきたいルールとマナー	日経BPコンサルティング/情報セキュリティ研究会		00・ニ
こども地政学	船橋 0 洋一	かんゼン	31・フ
身近な材料で Kids おもしろ科学あそび	青野 0 裕幸 0 01 まか	いかだ社	40・ア
できるかな? 人体おもしろチャレンジ	坂井 0 建雄	えほんの社	49・サ
スーパーココロドミノ装置	野出 0 正和	いかだ社	75・ノ

子ども向け図書館だよりでは、「夏の自由研究におすすめの本」など学習に役立つ特集コーナーの紹介や、参考文献の書き方を意識づけるような形の新刊紹介を工夫して行い(資料4)、紙面を通して活用推進や図書館利用指導に取り組んだ。

【資料4 子ども向け図書館だより7月号より抜粋】



【資料5 夏の自由研究におすすめの本コーナー】

夏の自由研究におすすめの本(資料5)は、展示本を入れ替えつつ、全学年に渡り100冊ほどの貸出があった。

子どもたちは、自分が調べたいテーマに沿って本を選び、足りないときにはレファレンス(調べもの相談)を受けて、学習・情報センター機能を活用した。

また、教職員向け図書館だよりでは、教科学習での利用を促進するため、教師用本棚(研究書・指導書・子どもの学習記録など)や授業で利用できる本の紹介などをし、図書館豆知識として学校図書館で行っている学習・情報センターとしてのサービスやパスファインダーについて説明した。(資料6)

《図書館利用指導：情報センターとして》

分類についてはもちろん、テーマの決め方、参考文献の書き方、著作権についてなど、図書室の資料を使って行う調べ学習のお手伝いができます。図書の時間の最初の10分を頂いて、普段から少しずつ取り組んでいき、いつでも調べ学習に取り組んでもらえるよう準備していきます。

《調べ学習のお手伝い：学習センターとして》

調べ学習で使いたい単元などを事前にお知らせいただければ、市立図書館などから資料を借りるなどして用意することもできます。便利に、計画的にご利用ください。また、パンフレットや冊子などの図書以外の資料も、書庫に整備しています。

昨年度利用のあった本のリストやパスファインダー、児童が調べ学習でまとめた作品なども保存してありますので、いつでもお声がけください。

【資料6 教職員向け図書だより4月号より抜粋】

学習・情報センターのサービス説明後、4月国語「図書館へ行こう」単元と関連して依頼があり、全クラスでオリエンテーションを行い、ラベルの見方についてなど図書館利用指導を行った。

また、これを契機として、学習・情報センターとしての利用が増え、令和3年1学期の活動回数(19回)は、令和2年1学期活動回数(17回)より増加した。

ウ. 計画的な図書館利用や情報活用に関する指導

椋本小学校図書館では、学年別に年間を通じた図書館利用指導・情報活用に関する指導の計画をたて、百科事典の使い方を学ぶ3年生から、参考文献の書き方など学習に踏みこんだ内容の指導を行っている。

令和3年は、指導実践の事例一覧に記すように、図書の時間や利用者の多い梅雨時期の図書館利用指導に着目した図書館まつりなどの機会を利用して計画的に取り組んだ。

《図書館利用指導・情報活用に関する指導実践の事例一覧》

指導内容	★工夫点	☆子どもの反応
<ul style="list-style-type: none"> ラベルの見方(分類・図書記号)を覚えよう。 <p>全学年</p>	<p>ペープサートやパペット、実際の本棚を使い、子どもの興味を引きながら話を進めた。(資料7)</p>	<p>子どもが迷わずに本を戻せるようになり、また案内表示を確認して必要な本を探せるようになった。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 目次と索引について知ろう。 百科事典の使い方を学ぼう。 奥付を見よう。 参考文献を書こう。 <p>主に3年生以上</p>	<p>紙芝居を使って指導し、実際の百科事典や図鑑を使って単語を探すなど、興味関心を引きながら進め、全員が理解できたことを確認しながら指導した。</p>	<p>参考資料コーナーを知り、疑問があればその資料を使って自ら調べることができるようになった。目次や索引を使って図鑑で調べ、教科学習での利用時には奥付を見て参考文献が書けるようになった。</p>



【資料7 ペープサートを使ったラベルの見方指導の様子】

指導内容	★工夫点	☆子どもの反応
<ul style="list-style-type: none"> 図鑑はどんなときに使うのかを知ろう。 <p>2年生以上</p>	<p>図書館だより裏面を使い、図書館まつりの一部として図鑑を使って答えるクイズを行い、来館を誘った。(資料8)</p>	<p>参加者全員が正解することができた。事後の聞き取りから、参加者はクイズ紙面の調べ学習のコツを読み、目次や索引を使って参考資料を使い調べることができたと確認できた。(資料9)</p>



【資料8 図鑑を使い、クイズの答えを調べる子どもの様子】

「目次を見たらわかった」(2年)

「難しかったけど最後まで調べられた」(3年)

「索引を使った。便利」(4年)

「結構難しかったけど面白かった」(4年)

「取組はいいと思った。調べられるようになった」(6年) など

【資料9 図鑑を使ったクイズ事後の聞き取り(参加12名)より抜粋】

エ. レファレンス(調べもの相談)。日常的な調べものを手伝うサービス。

図書館だよりによる便利な図書館利用法の周知や図鑑を使ったクイズなどの取組を続けた結果、子どもは学校図書館を何かわからないことがあったら調べに行く場所として意識するようになった。

授業を通して知りたくなったことや自分の興味があるものなどについて、学校司書に相談してくるようになり、休み時間・図書の時間ともに読書相談やレファレンスが増えている。

②考察

図書館利用の様子を観察したところ、学習などで疑問を持った子どもは休み時間に図書館に来て、参考資料コーナーへ行き、調べることができていた。また、聞き取りから、自分の力だけでは調べられない場合には、学校司書に疑問や問題を伝え、レファレンスを利用していることも確認できた。これは、環境整備で調べ学習がしやすくなり、図書館だよりや利用指導で図書館の使い方を知ったことにより、子どもが学習・情報センターとしての学校図書館を活用し始めたのだと考えられる。

《学習・情報センターの機能充実・活用推進 成果と課題》

(成果)

- 機能を充実させた学習・情報センターにおいて、活用推進を行ったことより、子どもが疑問や問題をもって学校図書館に来館し、レファレンスや資料を活用して自分で調べる姿を見られるようになった。

(課題)

- 疑問や問題があるときに、学校図書館やその資料を活用する力を持った子どもを増やすため、図書館利用指導や図書館だよりを使った活用推進を行っていく必要がある。

(2) パスファインダー(調べ方の道案内)の活用

①【実践I】教科学習におけるパスファインダーの活用

5年生 国語 「環境問題について報告しよう」 令和3年6月

ア 実践のねらい

子どもにパスファインダー(調べ方の道案内)を活用させ、図書館を使いどのように調べたらいかがを学ばせ、求める情報を獲得させ、探す答えにたどり着かせて、自ら問題解決させる。それにより、情報活用能力・問題解決能力を養い、学校図書館を活用して自ら学ぶ子どもを育てる。

イ 研究の実際

3年生以上を対象に、図書館資料が役立てられそうな教科単元をテーマにしたパスファインダーを作成した。(1学期末まで)

パスファインダーを作成するときには、教科書を確認して教師・子どもの求める情報を精選し、参考文献の書き方や引用・要約の仕方などの情報も「調べ方のコツ」として載せている。

また、子どもに順を追って調べさせることで調べ方を身につけさせ、自ら学ぶ方法を学べるよう、項目や流れなども考えて工夫した。(資料10、資料11)

「パスファインダー」～調べ方の道案内～ 冊子に載っているテーマについての調べかたや資料を紹介しています
 桜井小学校図書館 令和3年5月11日

「環境問題について報告しよう」(5年国語)

手がかりとなるキーワード

・地球温暖化 ☐ ・ごみの減量とリサイクル ☐ ・河川の水質と美化 ☐ ・大気おせん ☐ ・外菜種 ☐ ☐ ☐

調べるときに大切なこと ☐ ※一つの情報源だけを信用しないで、必ず二つ以上の資料を調べる ☐

1. まずは、百科事典や図鑑で調べてみよう! ☐ 参考資料のコーナーを見よう ☐

☐ 手がかりとなるキーワードについて、百科事典や図鑑で調べてみよう ☐

分類	書名	発行所	発行年	備考
03 ☐	『総合百科事典ポプラディア ☐ 新訂版』 ☐	ポプラ社 ☐	2011 ☐	百科事典 ☐
05 ☐	『朝日ジュニア学習年鑑』 ☐	朝日新聞出版 ☐	2020 ☐	年鑑 ☐
46 ☐	『まぐろまぐろ生物多様性』 ☐	PHP ☐	2020 ☐	図鑑 ☐
51 ☐	『21世紀子ども百科 ☐ 地球環境篇』 ☐	小学館 ☐	2004 ☐	事典 ☐
51 ☐	『よく加って減らそう! ごみの大研究』 ☐	PHP研究所 ☐	2011 ☐	事典 ☐

★調べ方のコツ★ ☐ 資料を見て、参考文献を書こう ☐

☐ 資料を読んで調べたら、その資料を見て、参考文献を書いておきましょう ☐

☐ 資料は、読んだ人がその本について何かを知りたいことがあったとき、書くことができる科手や連絡先が書いてあるところです。本のさいごに、本のなまえが書いてあるところがあったら、そこが資料です ☐

☐ 参考文献とは、自分がそのテーマを考えるのに役立つ本や資料がのっている本やウェブサイトのこと、つまり「考えをまとめる調べるときに参考にした本や資料のことです ☐

【参考文献の書き方】

☐ [] ☐ 著者名 ☐ 発行所 ☐ 出版年 ☐ ページ数 ☐ を書きます ☐

2. 本で詳しく調べてみよう!

☐ 百科事典や図鑑のほかにも ☐ 「環境問題」 ☐ に関する本があります ☐

☐ ラベルの番号が ☐ 4 ☐ 6 ☐ や ☐ 5 ☐ 1 ☐ で始まる本棚のところできがしてみましょう ☐

学び方例

手がかりとなる
キーワード

1. 百科事典や
図鑑で調べる

(コツ：参考
文献の書き
方)

2. 専門の本で
くわしく調
べる ↓

【資料10 パスファインダー 表】

分類	書名	発行所	発行年	備考
46.	『ざかん海外を侵略する日本と世界の生き物』	旺文社	2017年	
51.	江戸のくらしから学ぶ『もったいない』1～3	ポプラ社	2008年	シリーズ
51.	『ごみゼロ大作戦！めざせ！Rの達人』1～6	ポプラ社	2017年	シリーズ
51.	『英語で地球をわくわく探検みんなで取り組む 3RD ごみを減らす Reduce』	Jリサーチ出版	2020年	
51.	『今、世界はあぶないのか地球を守る』	評論社	2020年	
51.	『地球環境のためにわたしたちができること』	ポプラ社	2000年	シリーズ
51.	『地球をまもるみんなの環境学習実践』	岩崎書店	2001年	シリーズ
51.	『これはたいへん！ゴミの話』1～8	文研出版	1997年	シリーズ
51.	『わたしにもできるリサイクル』1～4	学研	1995年	シリーズ
51.	『地球の環境問題シリーズ4 わたしたちの水があぶない！』	ポプラ社	1999年	
51.	『地球の環境問題シリーズ6 フロンガスがオゾン層をこわす！』	ポプラ社	1999年	

3. 本以外の資料も見てみよう 本校小図書館にあります、開いてみてください。

- ・『地球温暖化ってなに？』（環境省地球環境局）
- ・『家庭ごみの分け方・出し方』ごみ出しに関するパンフレット（横浜市 HP より）
- ・『よごれた水をきれいにするしくみ』（横浜市 HP より）
- ・『外来生物について楽しく学ぼう』こども学習サイト（東京都環境局自然環境部計画課）

4. インターネットで調べてみよう

- ・全国地球温暖化防止活動推進センター H P O <https://www.jocca.org/>
- ・横浜市 H P O <http://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/gomi/index.html>
- ・小学生のための環境リサイクル学習ホームページ <http://www.gje.or.jp/j-school/index.html>
- ・『どうしてあんな？外来生物。外国からやってきた生き物たち』環境省 <http://www.env.go.jp/nature/intro/kids/index.html>

(2021年5月11日確認)

★調べ方のコツ★ インターネットで正しい情報を探そう

- ※いくつかの情報が確認する。
- ※いくつかの情報（ホームページなど）で確認する。
- ※その情報について何か調きたいことがあったとき、聞くことができる相手や場所が複数ある場合は、異なるものは異なる。

↑分類から
専門の本を
見つけ、くわ
しく調べる

3.本以外のパ
ンフレット
等の資料で
調べる。

4.インターネ
ットで調べ
る
(コツ：イン
ターネット
情報で正し
い情報を探
そう)

【資料11 パスファインダー 裏】

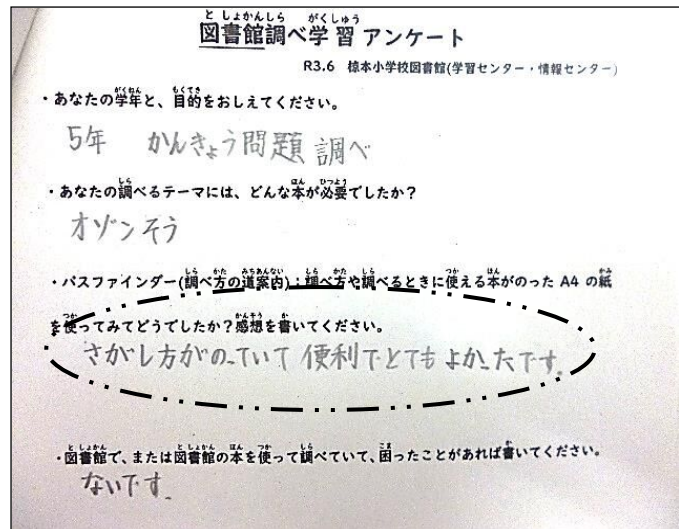
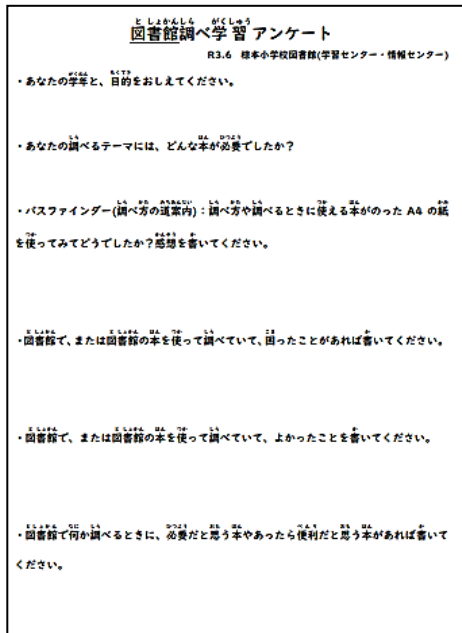
作成後、年間指導計画を確認して適時パスファインダーの見本を担任教師に配布、活用を推進する。また、予習のため休み時間に来館し、資料について相談してくる子どもにもパスファインダーを紹介し、直接活用を推進した。

その中で5年生の子どもがクラス全員での活用を希望したため、担任教師と相談、連携してパスファインダーを配布し、必要な図書・ファイル資料を貸出した。学校図書館に来る時間を確保できないということで、教室で図書館資料・タブレットを使用しての調べ学習となった。

調べ学習後、パスファインダー使用の感想や学習・情報センターとしての機能改善を目的に、図書館調べ学習アンケートへの協力を担任教師に依頼、子どもに実施した。

回答者26名中、パスファインダーが自分の調べ学習に役立つと感想で答えた子どもが24名であった。(資料12, 資料13)

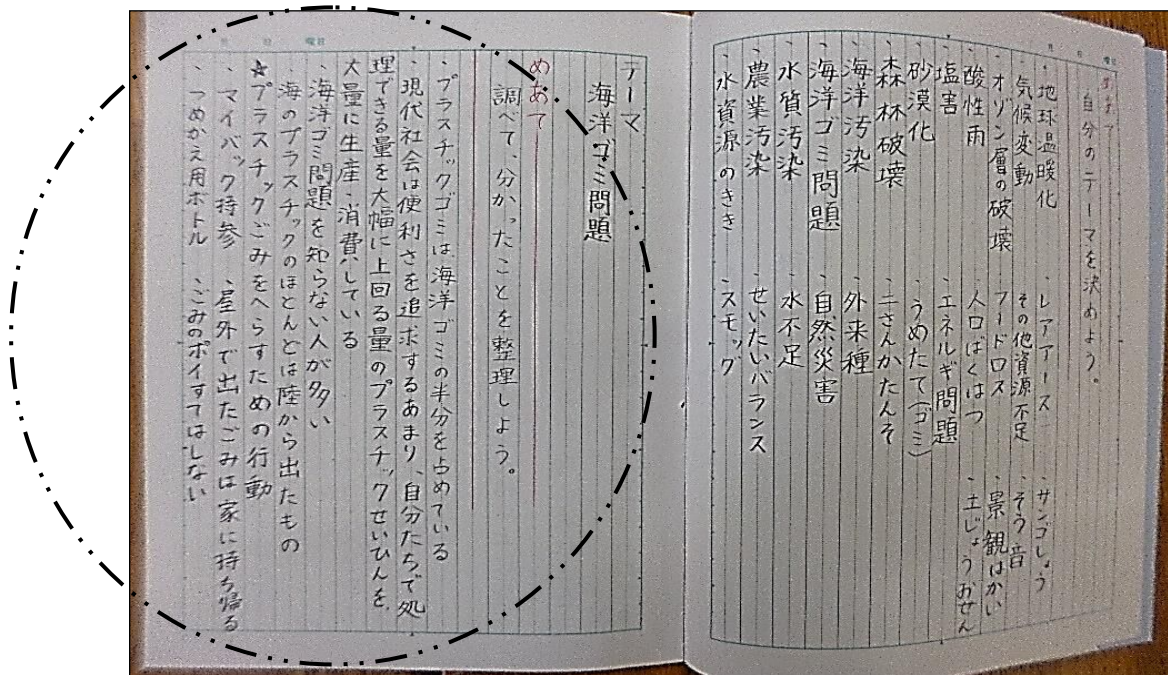
否定的な意見はなかったが、使っていないと答えた児童が1名、無回答が1名であった。これは、パスファインダーを使うことへの否定・拒否や改善の要望ではないため、丁寧な説明と積極的な活用推進で対応できると考える。



【資料12 図書館調べ学習アンケートから】

- ・「ある本がわかりやすく、見やすく、調べやすかったです。」
- ・「調べ方などがくわしく書いてあったのでわかりやすかった。」
- ・「さがし方がのってて、便利でとてもよかったです。」
- ・「ネットでも調べやすかった。」
- ・「自分の調べたいものがあったので、とても役に立った。」
- ・「便利でした。学習に使いやすかった。」
- ・「とても役に立った。自分の調べたいものがあったから。」

【資料13 5年生 パスファインダーを使ってみての感想より抜粋】



【資料14 図書館資料を活用してまとめたノート記述より抜粋】

ウ 考察

アンケートやまとめた国語科のノートの記述から、パスファインダーを参考にして資料やネットの情報源を見つけ、見つけた情報から自分のもつめる答えを探しだせた子どもがほとんどであったことがわかる。順を追って調べさせる構成や「調べ方のコツ」に載せたインターネット情報の正しい探し方などをヒントに、子どもは情報を得て、答えにたどりつくことができていた。

この実践を通して、子どもに図書館を使いどのように調べたらいいかを学ばせ、求める情報を獲得させ、探す答えにたどり着かせて、自ら問題解決させることができたと考える

子どもの要望による教科学習でのパスファインダー活用は、子どもの自発的な学習・情報センター利用として望ましかった。しかし、1回目の活用は主に学校図書館側からの働きかけによったものであり、日常的にパスファインダーを活用してもらうためにより積極的な図書館だよりや声かけなどでの周知・活用推進が必要であると感じた。

《実践Ⅰの成果と課題》

(成果)

- 5年生26名で実施したこの実践において、92%の子どもがパスファインダーを自分の調べ学習に使い、問題解決できたと答えた。
- 記述から、調べ方を理解し一人で調べ学習を進められたことや、ネットを使った児童でもパスファインダーを参考にしたことが確認できた。

(課題)

- 1度の実践だけでは、情報活用能力・問題解決能力を養うことはできず、自ら学ぶ子どもの育成にはならないため、子どもにパスファインダーの活用を繰り返させる必要がある。
- 教科学習でのパスファインダー活用を増やすため、図書館に来館した子どもや図書委員会の子どもの授業の様子を聞き取るなどして工夫し、子どもと教師に必要なときに必要とされる学習支援を工夫して行っていく。

②【実践Ⅱ】パスファインダーを繰り返し活用させる

委員会活動及び教師との連携を工夫して、パスファインダーを繰り返し活用させる。

椋本小学校図書委員14名 令和3年9月～11月

ア 実践のねらい

パスファインダー(調べ方の道案内)を繰り返し活用させることにより、情報活用能力・問題解決能力を養い、学校図書館を活用して自ら学ぶ子どもを育てる。

教科学習でのパスファインダー利用を増やすため、子どもと教師に対して、学習・情報センター機能の周知と活用推進に取り組む。

イ 研究の実際

実践Ⅰでは、日常的な支援で資料の探し方や図鑑・百科事典の使い方などの図書館利用の基礎を培い、教科学習における支援でパスファインダーを活用させることで、子どもは調べ方の道案内に従い、自分の力で情報を得、答えにたどりつくことができた。

しかし、情報活用能力・問題解決能力を養い、自ら学ぶ子どもを育成するためには、パスファインダーの活用を繰り返させることが必要である。

実践Ⅱでは子どもにパスファインダーの活用を繰り返させるため、図書館に来館した子どもや図書委員会の子どもの授業の様子を聞き取り、年間指導計画を確認して必要なときに必要とされるだろうパスファインダーや資料の提供などの声かけを行っていった。



教師に対しても、教科学習での図書館利用につなげるため、授業で使えるような図書の特設コーナーを用意し、手に取りやすい場所に設置するなど工夫して考えた。

事務室の司書机上で、学校図書館に来る時間がない教師にも興味を持ってもらえるよう、平和学習に使えるような資料や感染症についての本を展示するなど適時特集を組んでいる。

(資料15)|

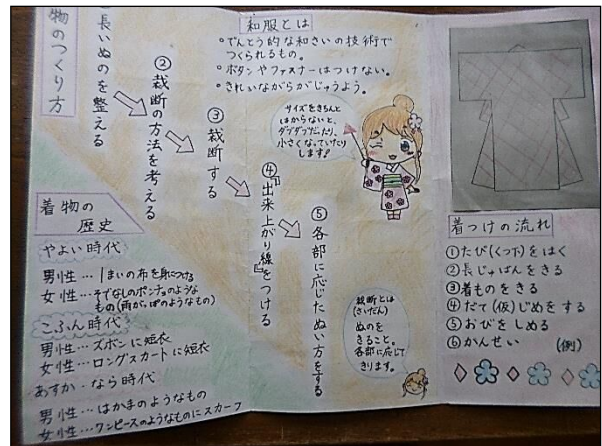
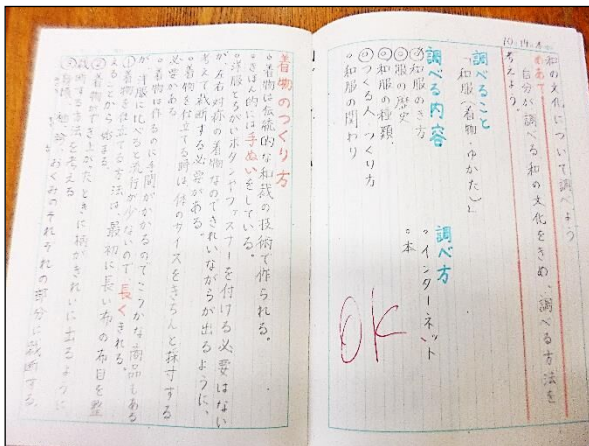
【資料15 事務室机上の教職員向け特設コーナー】

これらの取組により、平和学習で読み聞かせに使う本を教材として提供し、特別な支援を要する子どもにも読みやすいLLブックを紹介し活用してもらうなど、様々な支援につなげることができた。また、担任教師から調べ学習で学校図書館を使いたい単元などを事前に声かけしてもらうことが増え、使用する資料が重複するときなどは時期を調整してもらうなど、より気軽かつ活発な学習・情報センターの利用が増えた。

10月には5年担任教師より教科学習での学習支援の要望があり、繰り返しとなる2回目のパスファインダー活用を実施することができた。

事前に見本を渡していたパスファインダーを印刷して担任教師より配布してもらい、5年生の教室外廊下に「和の文化を受けつぐ」のコーナーを作り、ファイル資料も提供して、国語の時間いつでも調べられるようにした。加えて担任教師には、授業で参考にするよう、情報センターとして昨年度5年生の学習記録資料を提供した。

5年生は、2度目となるパスファインダーを活用し、図書館資料とインターネットを使って調べ学習を行い、冊子としてまとめた。(資料16, 資料17)

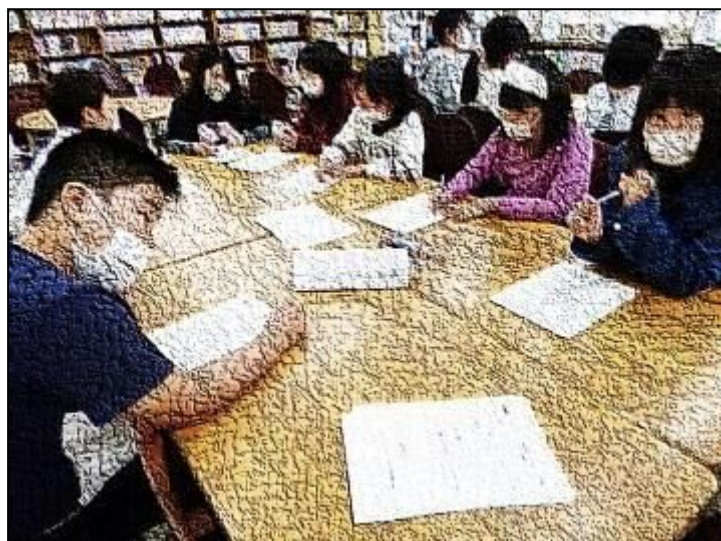


【資料16 図書館資料を活用して子どもが書いたメモ】 【資料17 左のメモを使い、学習でまとめた冊子】

調べ学習後、繰り返してのパスファインダー活用により、情報活用能力・問題解決能力が一回目の活用より養われたかを確認するため、5年生図書委員に聞き取りを行い、「パスファインダーをもっとよくする会議」を開いた。これは委員会活動の一環で、子どもたち自身に学校図書館運営を考えさせるため、読書センターとしての「読書会をもっと増やす会議」などと並行して行ったものである。(資料18, 資料19)

- パスファインダーを1回目使った時と2回目に使った時では、自分に何か変化がありましたか？
- ・「最初はわからないことがたくさんあったけど、続けて(2回目)パスファインダーを使ったら面白くなってきた。」
 - ・「インターネットだけで調べるより、わかりやすく書かれた本があったほうが調べやすいと感じた。」
 - ・「自分の調べていることが書かれた本を、(早く)見つけられるようになった。」
 - ・「(1回目より)2回目のほうが、たくさん本やネットを見て調べられた。」

【資料18 「パスファインダーをもっとよくする会議」の聞き取りから】



【資料19 5年図書委員による「パスファインダーをもっとよくする会議」の様子】

ウ 考察

子どもや教師への聞き取りからの適切な学習支援や、教師への特設コーナー設置等の学習・情報センター活用推進の取組により、教科学習での図書館利用を増やし、パスファインダーの活用を繰り返し行わせることができた。

5年図書委員による会議の聞き取りから、1回目より2回目のほうがパスファインダーに慣れ使えるようになってきたことや、選びだす情報源が増えて情報活用能力が向上している様子、パスファインダーを使って調べるのが面白くなってきている様子を確認することができた。子どもがパスファインダーを繰り返して活用することで、調べ方を身につけ、情報を活用し、自ら問題を解決して達成感を得ている様子がうかがえる。

この経験を繰り返すことで、情報活用能力・問題解決能力が養われ、「自ら学ぶ」力が定着すると考える。

《実践Ⅱの成果と課題》

(成果)

- パスファインダーの活用を繰り返させることは、情報活用能力・問題解決能力などを養い、学校図書館を活用して自ら学ぶ子どもを育てることに概ね有効であった。
- 教室の調べ学習にも、学習センターとして積極的な援助に乗り出すことができた。

(課題)

- 5年図書委員による「パスファインダーをもっとよくする会議」では、「学校全体で、便利なパスファインダーの宣伝をした方がいい」等の意見が出、活用推進のためさらに周知していく必要がある。
- 子どもが学校図書館で、実際に本棚から資料を探し調べ学習を行う時間の確保が難しい。

6 全体考察

(1) 学習・情報センター機能の向上を図る環境整備・活用推進について

図書館環境の整備などの日常的な支援を通し、自主学習や図鑑を使ったクイズなどの場で、子どもが学習・情報センター機能を活用し、利用指導等で学んだことを活かして本を探し、図鑑等参考資料を使い、情報を集め、選び、読み解いて、答えを導き出す姿を確認できた。資料提供だけにとどまらず、配布した本のリストを使い読書会を行うなど、子どもは自分たちで活動を発展させることができている。

図書館だよりによる活用推進では、おすすめ本の貸出冊数が増加し、高学年児童の自発的来館や読書相談、自主学習のための図書貸出が増えた。

また、全学年に渡り学習相談やレファレンスも続いていることから、子どもが学習・情報センターとしての学校図書館を理解し、疑問や問題があるときに自ら図書館へ行き、調べようとする姿を確認できる。学習・情報センターとしての学校図書館を活用し、レファレンスサービスを受ける子どもは、学校司書に自分の疑問や問題をはっきりと伝え、提供された資料や情報から自分の求める答えを見つけ出すことができている。(資料20)

学年	教科等	椋本小学校図書館レファレンス(調べもの相談)事例 抜粋
1年	国語(自主学習)	「本はともだち」で紹介された作家が書いた別の本を読みたい。
2年	興味をもったもの	めだかの育て方についてくわしく知りたい。
3年	国語(自主学習)	パラリンピックについてわかる本はあるか。
4年	社会(自主学習)	地震のしくみがわかる本はあるか。
5年	体育(自主学習)	陸上競技の本。早く走れるようになる方法が知りたい。
6年	興味をもったもの	地政学についての本はあるか。

【資料20 椋本小学校図書館2学期レファレンスの記録より抜粋】

これらのことから、日常的な支援を通して、椋本小学校図書館は学習・情報センターとしての機能を充実させ、その機能を子どもに活用させて、学習の意思と活動を支え、情報用能力・問題解決能力の養成へつなげることが概ねできていると考える。

(2) パスファインダー(調べ方の道案内)の活用において

		9月		10月		
学年	教科	単元名	内容	教科	単元名	内容
1年				国語	ほんはともだち	蔵書貸出(23冊)
2年				国語	どうぶつのひみつをさぐる・本でしらべよう	百科事典や図鑑の使い方などを載せた調べ方サポートの紙を作成提供。図鑑等蔵書貸出(15冊)
3年				国語	パラリンピックについて調べよう	パスファインダー作成提供。蔵書貸出(7冊)手話・車いすの本含め。ファイル資料貸出。
4年	社会	地震にそなえるまちづくり	パスファインダー作成、提供。	国語	くらしの中の和と洋	パスファインダー作成、提供。蔵書貸出(30冊)
5年	家庭科	持続可能な暮らしへ	SDGs(経済・社会)の資料リスト作成、提供	国語	和の文化について調べよう	蔵書貸出(30冊)、パスファインダー作成、提供。ファイル資料貸出。
	国語	物語のおもしろさを解説しよう	蔵書貸出(27冊)宮沢賢治の本の所蔵リスト及び読了チェックリスト作成配布。			
6年	総合	好きな仕事について	蔵書貸出(26冊)仕事の本	国語	町の未来をえがこう	パスファインダー作成提供。蔵書貸出(23冊)ユニバーサルデザイン・震災復興など、町作りを考えるための本。ファイル資料貸出。

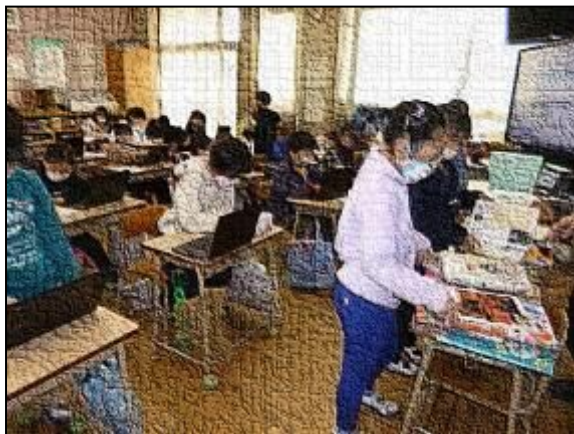
司書がおすすめする児童書新刊(10冊程度)事務室先生方向け特集展示

学年による学習内容の違いなどがあるため、学習・情報センターとしての利用回数を活用の目安とすることはできないが、10月には全学年において学習支援をすることができた。

また、学習指導要領(総則)に「学校図書館の計画的な利用とその機能の活用は、各教科を通じ、どの教員にも求められる」とあるように、2学期は国語だけでなく社会・家庭科・総合の時間などにおいてもパスファインダーや本のリストを作成、提供して学習支援を行うことができています。(資料21, 資料22)

これは、本のリストやパスファインダーを常時備えるなど機能を充実させ、年間指導計画を毎月確認して子どもや教師に声をかけ活用推進し、必要とされるときに学習・情報センターとしての支援ができた結果だと考える。

【資料21 令和3年度2学期学習センター活動記録】



【資料22 図書館資料を使い調べ学習に取り組む子どもの様子/3年生総合「韓国について」】

各学習支援後担任教師より、以下のような感想を聞くことができた。

- ・「インターネットだけでなく、並行してわかりやすく必要な情報がまとめられた本を使っての調べ学習も必要だと感じた」
- ・「調べ学習に必要な本のリストやパスファインダーを事前にプリントしてくれ、資料をまとめてクラスに運んでくれたりしていて、とても満足している」

【資料23 学習支援後の教師の感想より】

1学期末には教師へ機能向上・改善を目的に学校図書館アンケートを実施した。

パスファインダーや教科書に登場する作家の本のリスト、課題図書に取り組むためのスタンプラリーは役に立っていますか？

役に立つ	やや役に立つ	ふつう	あまり	使ったことがない	わからない
37%	36%	0%	9%	9%	9%

図書館利用指導の取組(百科事典の使い方等)がいずれ児童の役に立つと思われますか？

役に立つ	やや役に立つ	ふつう	あまり	使ったことがない	わからない
91%	9%	0%	0%	0%	0%

【資料24 教師対象 学校図書館アンケート結果】

●パスファインダー(調べ方の道案内)や教科書に登場する作家の蔵書リスト、楽しんで課題図書に取り組むためのスタンプラリーなどを作成しています。
お役に立っていますか？

役に立つ やや役に立つ ふつう あまり 使ったことがない

●探本小学校図書館では、本の紹介や読み聞かせの他、図書館利用指導(百科事典・図鑑の使い方や参考文献の書き方など、簡単な報告書が書けるようになるまでの図書館利用指導)も行っています。
これらの取組が、いずれ児童の役に立つと思われますか？

役に立つ やや役に立つ ふつう あまり わからない

●教科等での利用の際など、学校図書館にどのような支援をしてほしいと思いますか？
また、現状に改善点があれば教えてください。(自由記述)

とても満足しています。
調べ学習に必要な本の一覧表を事前にプリントしてくれたり、まとめてそろえて学級に運んでくれたりしてくれています。

●児童が今まで以上に、図書館を活用して問題を解決し、調べ学習に気軽に取り組める

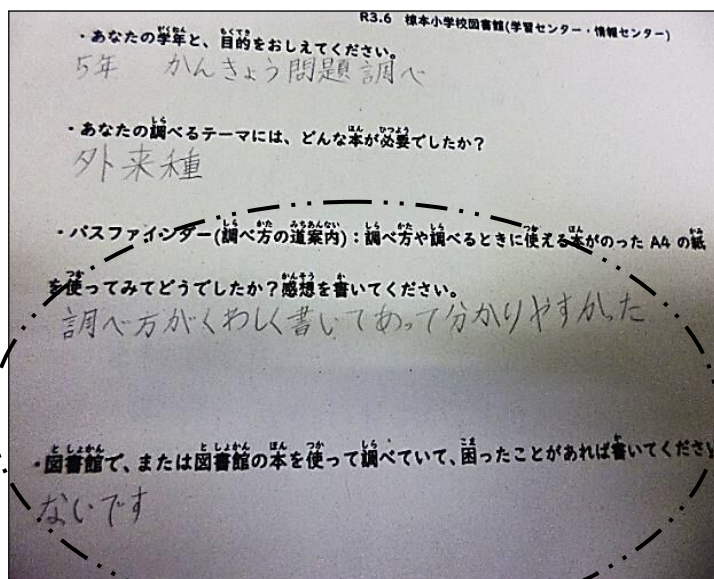
学校司書が積極的に教師のサポートや学習支援を行うにより、教科学習での図書館利用の増加や子どものパスファインダー活用につながられたと考えられる。(資料23)

教師のパスファインダーや本のリストの活用、図書館利用指導の取組への評価も「役に立つ」「やや役に立つ」が多かった。(資料24、資料25)

【資料25 教師対象 学校図書館アンケートより】

教師へのサポートや支援は子どもの教科学習支援につながり、またその支援により学校図書館が子どもの学習に役立つと教師に再認識してもらうことで、子どもの学習・情報センターの活用の機会が増える。

①【実践Ⅰ】 教科学習におけるパスファインダーの活用

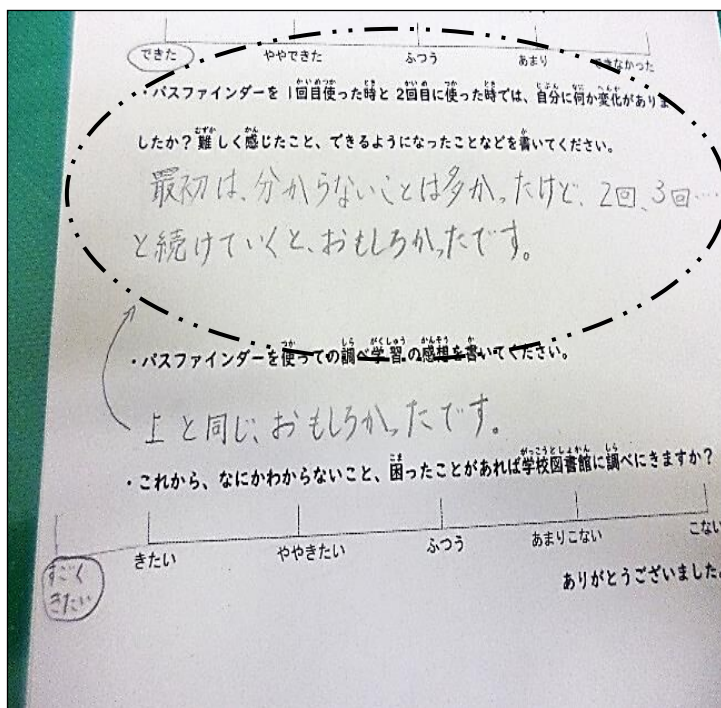


- 5年生26名中、92%の子どもがパスファインダーを使い、問題解決できた。
 - 調べ方を理解して、一人で調べ学習を進められた。
 - ネットを使った児童でもパスファインダーを参考にした。
- アンケートの記述から、子どもに図書館を使いどのように調べたらいかを学ばせ、求める情報を獲得させ、探す答えにたどり着かせて、自ら問題解決させることができたと考ええる。(資料26)

【資料26 実践Ⅰ後のアンケートから】

しかし1度の実践では、情報活用能力・問題解決能力を養うことはできず自ら学ぶ子どもの育成にはならないため、教師との連携を工夫して教科学習での図書館利用を増やし、子どもにパスファインダーの活用を繰り返させた。

②【実践Ⅱ】 パスファインダーを繰り返せし活用させる



- 1回目より2回目のほうがパスファインダーに慣れ使えるようになってきた。
 - 本やファイル資料、インターネットなど使う情報源の数が増えた。
 - 情報活用能力が向上している様子、調べるのが面白くなってきた。
- 5年図書委員の聞き取りから、子どもが繰り返せしパスファインダーを活用することで、調べ方を身につけ情報を活用し自ら問題を解決して達成感を得ている様子が見える。(資料27)

【資料27 実践Ⅱ後の聞き取りから】

このように、パスファインダーを活用し達成感を得る経験を繰り返すことで、情報活用能力・問題解決能力が養われ、子どもの「自ら学ぶ」力が育成されていくと考える。

パスファインダーの活用は、研究実践した5年生だけでなく、3年生以上の学年を対象に続けており、活用を繰り返すことにより、なにかわからないこと、困ったことがあれば自ら図書館で調べ、答えを見つけて問題解決するという意識が椋本小学校の子どもに根付いてきている。

これは、学習相談やレファレンスが途切れることなく続いていることから確認できる。

また、パスファインダーが調べ学習に役立つと教師に認識してもらうことで、学習・情報センターとしての学校図書館利用が増加し、機能が向上し、パスファインダー活用の機会がまた増え、子どもの自ら学ぶ力の育成に結び付くというような、日常と教科学習における支援の相乗作用もあった。

これらのことから、パスファインダーの活用は、自ら学ぶ子どもを育てるために概ね有効であったと考える。

7 成果と課題

(1) 成果

- ① 機能を充実させた学習・情報センターにおいて活用推進を行ったことより、疑問や問題をもって自分から学校図書館に来館し、調べ学習する子どもが増えた。
- ② パスファインダーの活用を繰り返させることにより、子どもに調べ方を身につけさせ、情報を活用させ、自ら問題解決させ達成感を得させることができた。

(2) 課題

- ① 学習・情報センターの機能のますますの充実を図り、その機能を活用推進して、子どもと教師への学習支援を活発にしていく。
- ② パスファインダーを最新の情報に更新して精査を重ね、子どもの情報活用能力・問題解決能力を養うよう構成を工夫し、繰り返し活用させて、自ら学ぶ力の育成を継続して支えていく。

<参考文献>

- ・赤木 かん子、『改訂版 調べ学習の基礎の基礎』ポプラ社，2011
- ・赤木 かん子、『しらべる力をそだてる授業』ポプラ社，2007
- ・赤木 かん子、『読書力アップ!学校図書館のつくり方』光村図書出版，2010
- ・山本紫苑、『調べ学習ナビ 理科編』理論社，2015
- ・石狩管内高等学校図書館司書業務担当者研究，
『パスファインダーを作ろう—情報を探す道しるべ』全国学校図書館協議会，2005
- ・全国学校図書館協議会、『学校図書館学びかた指導のワークシート』全国学校図書館協議会，2007
- ・福永 義臣、『学校経営と学校図書館』樹村房，1999
- ・子どもの読書サポーターズ会議『これからの学校図書館の活用の在り方等について(報告)』H21.3
- ・文部科学省『学校図書館ガイドライン』H28.12
- ・文部科学省『子供の読書活動の推進に関する基本的な計画(第四次)』H30.4